

2023年3月期  
第2四半期  
決算補足説明資料

---

2022年11月11日

地盤ネットホールディングス株式会社  
(証券コード：6072 東証グロース)

	2022年3月期		2023年3月期		前年同期比	
	Q2	構成比	Q2	構成比	増減	増減率
売上高	1,076	100.0%	1,184	100.0%	+108	10.1%
売上総利益	396	36.8%	435	36.8%	+39	10.0%
販管費	405	37.6%	426	36.0%	+21	5.3%
営業利益	△8	△0.8%	9	0.8%	+18	－%
経常利益	△8	△0.8%	8	0.7%	+16	－%
純利益	△17	△1.6%	△5	△0.5%	+11	－%

売上高：当期から3つのセグメントに区分。

「地盤事業」「BIM Solution事業」「JIBANGOO事業」全て前期比増

売上総利益：売上増により前年同期比+39百万円

純利益：経常利益は黒字化したものの、投資有価証券評価損3百万円の計上、四半期簡便法での税金計算の結果純利益はマイナスに。

## 2. セグメント別売上高（内部取引控除後）

（単位：百万円）

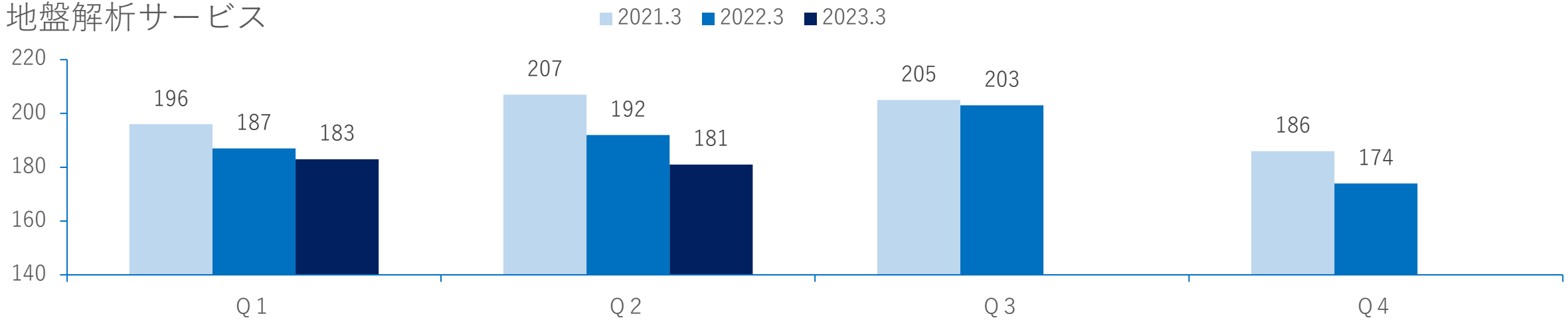
	2022年3月期		2023年3月期		前年同期比	
	Q2	構成比	Q2	構成比	増減	増減率
地盤解析	379	35.3%	364	30.7%	△15	△4.0%
地盤調査	266	24.8%	283	24.0%	+17	6.6%
部分転圧工事	134	12.5%	126	10.7%	△8	△6.1%
その他	48	4.5%	58	4.9%	+9	19.6%
<b>地盤事業</b>	<b>829</b>	<b>77.1%</b>	<b>833</b>	<b>70.3%</b>	<b>+3</b>	<b>0.4%</b>
<b>BIM Solution 事業</b>	<b>92</b>	<b>8.6%</b>	<b>122</b>	<b>10.3%</b>	<b>+29</b>	<b>31.6%</b>
<b>JIBANGOOS事業</b>	<b>153</b>	<b>14.3%</b>	<b>229</b>	<b>19.4%</b>	<b>+75</b>	<b>49.2%</b>
<b>合計</b>	<b>1,076</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,184</b>	<b>100.0%</b>	<b>+108</b>	<b>10.1%</b>

※1. その他：調査機器やFC加盟料・ロイヤリティ収入、地盤安心マップPRO等の売上

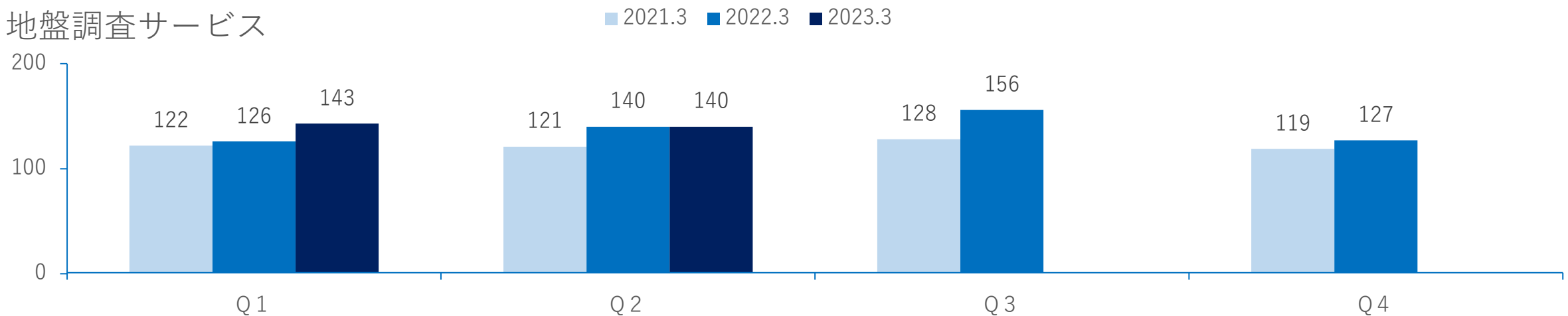
※2. BIM Solution事業＝BIM/BCPOサービス、JIBANGOOS事業＝住宅関連サービス

### 3. サービス別四半期別 売上高推移① (単位：百万円)

#### 地盤解析サービス



#### 地盤調査サービス

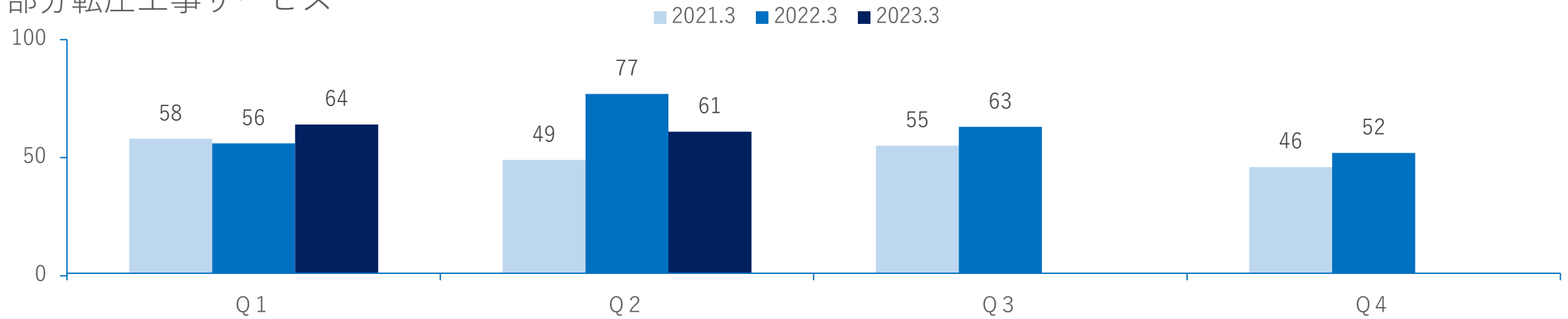


地盤解析サービス：改良工事判定案件の増加により件数減少。単価は横ばい。

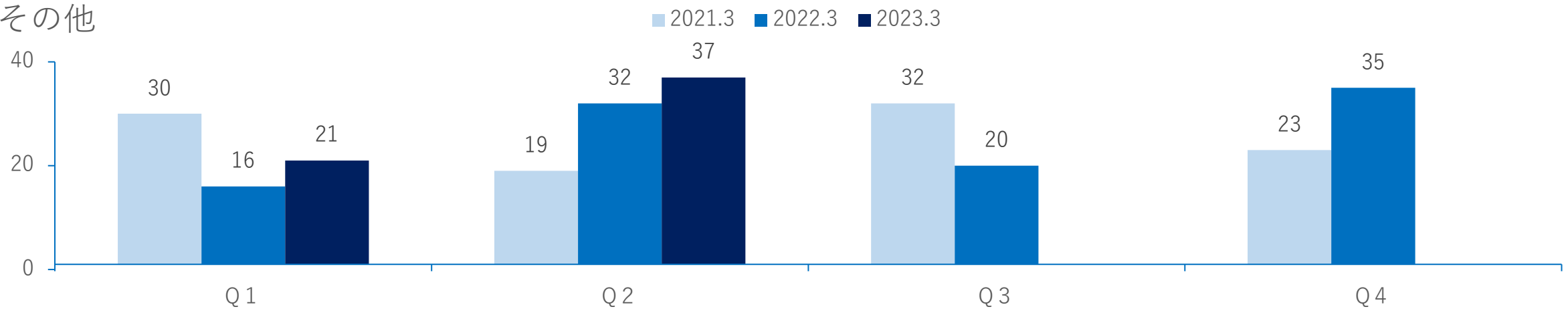
地盤調査サービス：新設住宅着工数は減少しているものの、営業体制見直しに伴い、前年同期比で増加。

### 3. サービス別四半期別 売上高推移② (単位：百万円)

#### 部分転圧工事サービス



#### その他

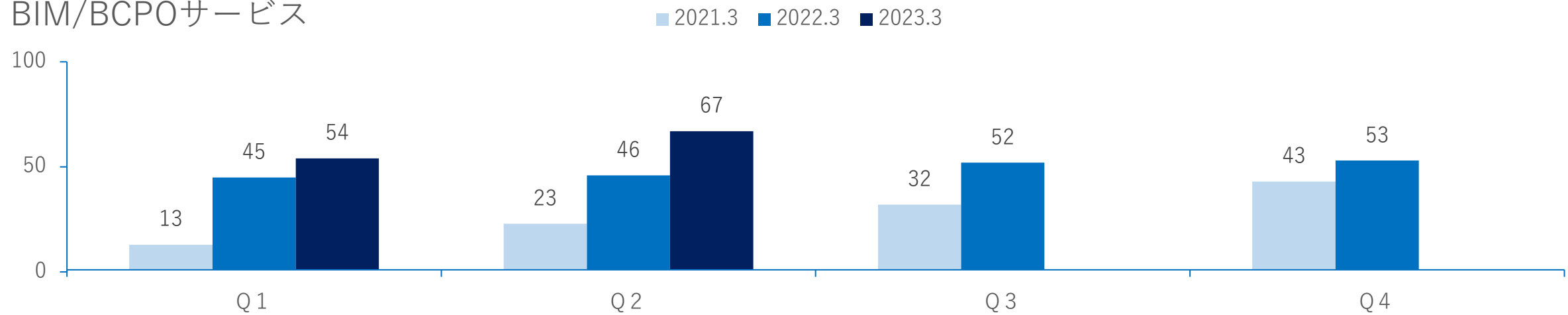


部分転圧工事：判定結果による前後はあるが、60百万円前後で推移。

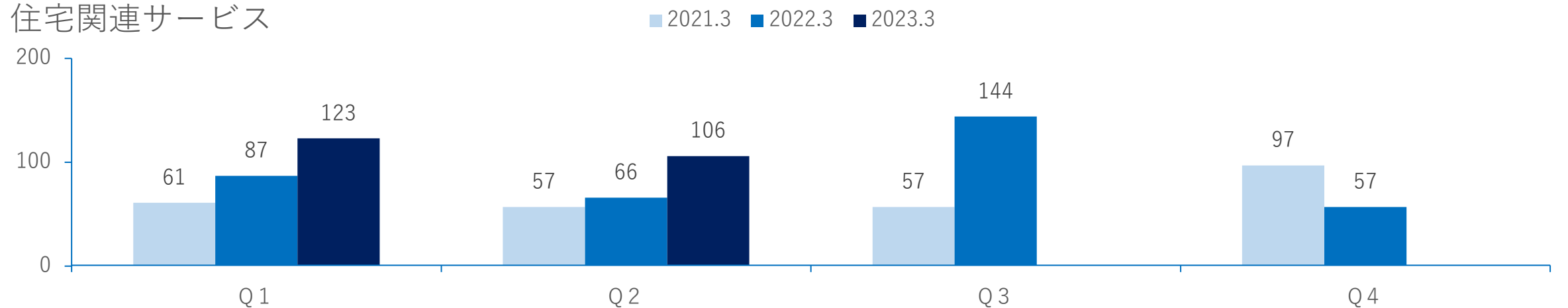
その他：FC加盟や調査機器販売がスポットで発生。

### 3. サービス別四半期別 売上高推移③ (単位：百万円)

#### BIM/BCPOサービス



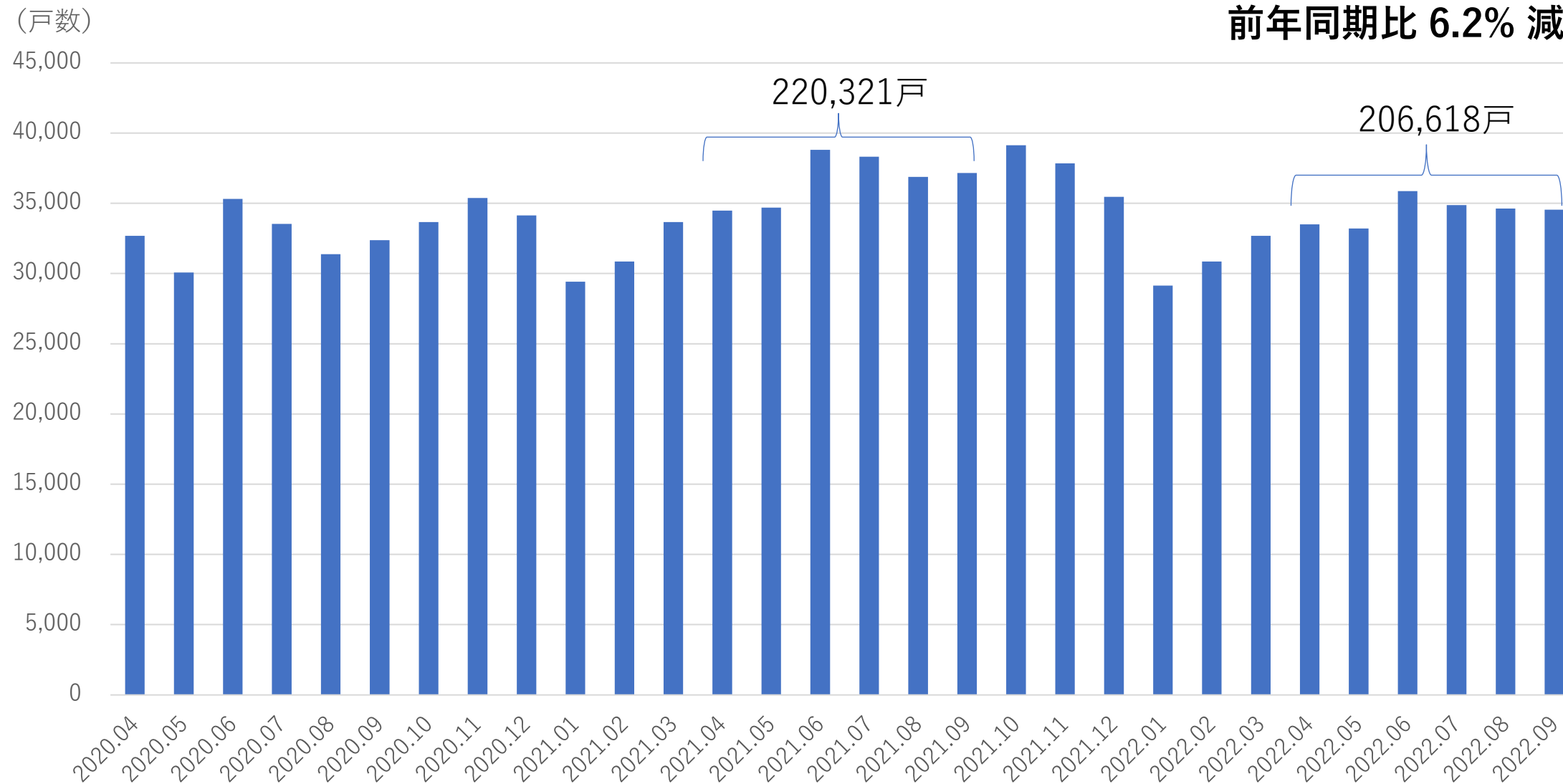
#### 住宅関連サービス



BIM/BCPO：商業施設や集合住宅等、戸建以外の案件も増加。新たにBIMモデリング案件も計上。

住宅関連：当2Qは買取再販案件の計上あり。

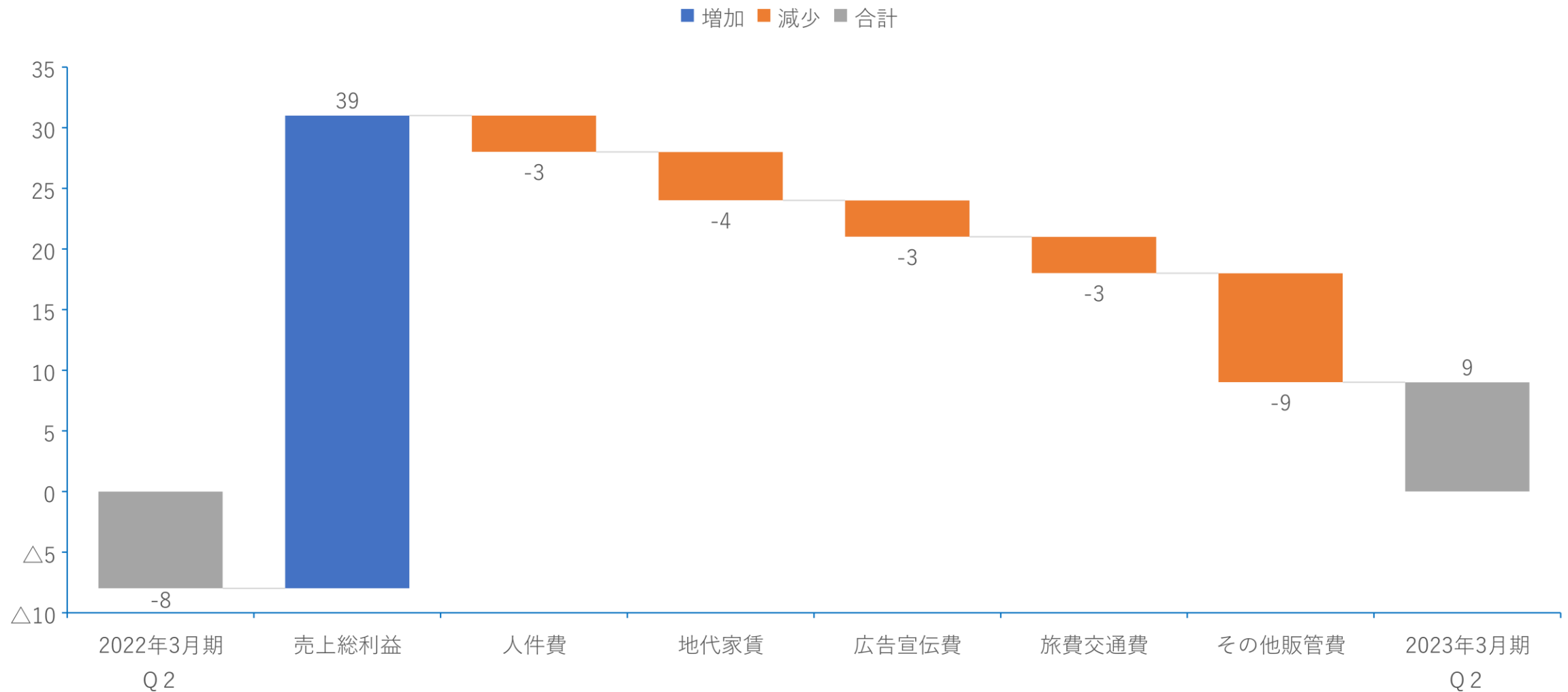
## 4. (参考資料) 新設住宅着工戸数 推移



出典：国土交通省「建築着工統計調査報告」

※当社グループの事業領域である持家、分譲住宅（一戸建て）を合算して、新設住宅着工戸数としております。

## 5. 営業利益 増減要因 (単位：百万円)



売上増加と原価低減により売上総利益が増加したことが主な要因。  
前年同期比 +18百万円。



# 6. 2023年3月期 第2四半期 連結貸借対照表 (単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		前期末比	
	期末	構成比	Q2	構成比	増減	増減率
流動資産	1,642	93.3%	1,632	94.1%	△9	△0.6%
有形固定資産	24	1.4%	22	1.3%	△1	△4.8%
無形固定資産	44	2.5%	40	2.4%	△3	△8.0%
投資その他の資産	49	2.8%	38	2.2%	△10	△21.6%
固定資産計	118	6.7%	102	5.9%	△15	△13.1%
<b>資産合計</b>	<b>1,760</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,735</b>	<b>100.0%</b>	<b>△24</b>	<b>△1.4%</b>
流動負債	335	19.0%	272	15.7%	△62	△18.8%
固定負債	184	10.5%	217	12.5%	+32	17.5%
<b>負債合計</b>	<b>520</b>	<b>29.5%</b>	<b>489</b>	<b>28.2%</b>	<b>△30</b>	<b>△5.9%</b>
株主資本	1,236	70.3%	1,230	70.9%	△5	△0.5%
その他の包括利益累計額	3	0.2%	15	0.9%	+11	312.4%
<b>純資産合計</b>	<b>1,240</b>	<b>70.5%</b>	<b>1,246</b>	<b>71.8%</b>	<b>+5</b>	<b>0.5%</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,760</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,735</b>	<b>100.0%</b>	<b>△24</b>	<b>△1.4%</b>

流動資産：現金及び預金+34百万円、未成工事支出金△20百万円、短期貸付金△14百万円

固定資産：減価償却による減少△11百万円、投資有価証券△3百万円（評価損計上）

流動負債：工事未払金△27百万円、未払金△17百万円、未成工事受入金△33百万円

固定負債：損害補償引当金+32百万円

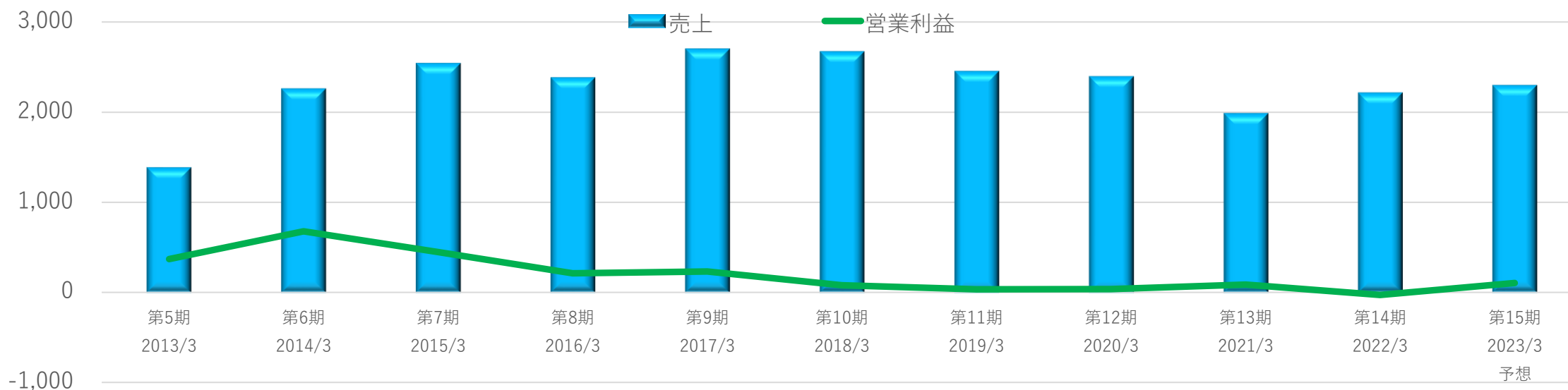
純資産：四半期純損失△5百万円、為替換算調整勘定+11百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比
	Q2	Q2	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	107	22	△85
投資活動による キャッシュ・フロー	△2	5	+7
財務活動による キャッシュ・フロー	△0	△0	△0
現金及び現金同等物の 期末残高	658	952	+294

棚卸資産の減少90百万円、前払費用の減少95百万円となったものの、未収入金の増加△157百万円もあり、営業活動によるキャッシュ・フローは22百万円の資金増となった。  
現金及び現金同等物の増減額も34百万円となり、前期末より資金増となっております。  
前年同期比で資金増加の要因は、2022年3月期の下期に有価証券の売却による収入263百万円があったため。

## 8. 直近10期間の連結業績推移 と 2023年3月期 通期業績予想 (単位：百万円)

	第5期 2013/3	第6期 2014/3	第7期 2015/3	第8期 2016/3	第9期 2017/3	第10期 2018/3	第11期 2019/3	第12期 2020/3	第13期 2021/3	第14期 2022/3	第15期 2023/3 予想
売上高	1,390	2,262	2,542	2,384	2,704	2,673	2,455	2,398	1,989	2,216	2,300
営業利益	371	679	447	213	233	79	35	38	87	△29	104
経常利益	358	680	446	215	234	74	34	44	91	△28	98
純利益	214	426	279	131	176	67	17	△108	△33	△46	83



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は当社が2022年11月11日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。  
実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。